

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100563
法人名	社会福祉法人相幸福社会
事業所名	グループホームみのり
所在地	富山市城川原1丁目17-14
自己評価作成日	令和2年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

併設している他の地域密着型事業所等と連携を取りながらケアを行っている。公園が隣接しており、季節感を感じることができる環境になっているので、コロナ禍においても少人数での散歩や外気浴などをして利用者様の気分転換を図っている。
また、施設の理念に沿った事業所目標を掲げ、それに合わせて職員も個人目標を考え、ケアの向上、自己研鑽に努めている。
コロナ禍で行事は、しばらく中止しているが、地域住民との交流もあり、地域に根ざした施設となっている。育児休暇制度や資格取得制度を整備しており職員が人生設計しやすく、向上心をもって働ける職場である。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和2年11月27日	評価結果市町村受理日	令和2年12月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

近所の人々が集う大きな公園の隣に位置し、近所の人々と同じように散歩したり日の光を浴びに公園に行くことができる好立地にある施設である。町内会や長寿会など地域との交流も活発に行われ、地域の方の避難訓練への参加があったり、行事と一緒に取り組んだり、自主防災組織の一員としても位置付けられている。資格取得へのサポートであったり、職員へ研修参加を進めたり、行きたい研修への参加などスキルアップに取り組みやすく、また、育児休業の取得や自法人に保育園や学童保育があるなど子育て世代にも配慮され働きやすい環境も充実している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った事業所目標を事業所入口に掲げている。今年は「自分の引き出しを増やそう」で、各職員が知識や技能等を研鑽し、利用者へのサービスに還元できるよう努めている。また自己評価も行い職員同士が見られるようにすることで他者に評価されることもよい刺激となっている。	事業所の入口に「自分の引き出しを増やそう」と掲示してあり、いつでも確認できるようになっている。それを基に職員個人個人が年間の目標を立て、半年ごとに振り返り、日々のケアに生かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナ禍のため中止されているが、城川原のグループ“コスモス班”が月1回集まり、カラオケ、体操、ゲーム、血圧測定などを行っている。事業所で行う行事は利用者および職員と地域の方々との交流の場となっており、お互いに心待ちにしている。	今年から始めた認知症カフェ(新型コロナウイルス感染症対策のため休止中)には地域の方18名が参加し、入居者と行事に参加した。また、地域のグループ「コスモス班」の方々に活動場所を提供したり、長寿会や町内会の行事に参加するなどつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「豊田地区で認知症を考える会」主催の“認知症家族介護教室”に施設職員が参加し相談を受けたりしている。地域行事にも積極的に参加し地域に密着した施設でありたいと考えている。運営推進会議を開催し地域の方々との理解を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っている運営推進会議では、事業報告、事例検討他、現状の課題などについて話し合っている。出された意見は傾聴し、地域の方々の思いや考え、助言等を知る良い機会としている。会議の記録は施設内に掲示し、会議内容を認識していただき共有できるよう利用者のご家族にも郵送している。	町内会長、長寿会長、民生委員、学識経験者、各事業所家族代表が参加されている。会議の中では民生委員と情報交換をしたり、新型コロナウイルス感染症予防などを話し合ったりなど、日々の活動につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当課には悩み事を相談し指導を受けたり、グループホーム連絡会に参加し他のグループホームの様子を聞いたりしている。地域包括職員とは運営推進会議の中で事業所の現状を伝え、空き情報や入居希望者の情報などを共有している。	地域包括支援センター職員と認知症カフェの案内を協力して行ったり、個別ケースを相談したりしている。介護相談員の訪問も定期的であり(新型コロナウイルス感染症対策のため休止中)、良好な関係を築いている。施設独自では対応しきれないクレーム等あった時は市の担当課へ随時相談、助言をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等行動制限についての取扱い要項」を職員全員に配布している。ミーティング時には日常のケアが身体拘束にあたらないか話し合っている。また、「言葉による拘束」についてお互い注意し合うようにしている。	「身体拘束等行動制限についての取扱い要項」を職員全員に配布したり、研修を行ったりして啓発に取り組んでいる。また、毎月のカンファレンスの中でも言葉による拘束などないか話し合い、一人ひとりであった言葉がけなど検討し職員同士で確認しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアの中で職員同士が注意し声をかけ合うことで防止に努めている。職員同士が相談し、話し合える雰囲気を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度を利用されたご家族はおられた。現在、親族が遠方に住む利用者がおられ、必要な付き添いを行っている。職員は権利擁護に関する研修に順次参加することになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者、ご家族に対して管理者、ケアマネジャーが十分説明し、理解、納得していただくようにしている。また、疑問点があればいつでも問い合わせさせていただきようお話ししている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月で富山市の介護相談員の訪問を受け、利用者と懇談してもらっている。利用者やご家族とは日常のケアの中や面会時などに話し合い、意見や要望を聞いている。聞き取った意見や要望はカンファレンスで共有し、運営に反映させている。	面会時に入居者の日々の様子をお伝えし、要望や意見を聞き取っている。新型コロナウイルス感染予防のため面会は予約制になっており、現在リモート面会の準備をすすめている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやカンファレンス、日常業務の中から出た意見は毎月の管理者会議で共有し運営に生かしている。また、異動で配置された新職員は、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月の節目で管理者との面談を行い意見を述べるようにしている。	業務内での意見や要望は、随時管理者に相談・提案・助言を聞く機会がある。職員間で意見を求めたいときは、毎月のカンファレンスの中で情報共有し検討している。内容によっては管理者会議で決定しフィードバックしている。異動した職員へは1、3、6ヶ月で、全職員に人事考課で6ヶ月ごとに面談を行っており、意見を伝えやすい場も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長、施設長、管理者の意見交換を頻回に行うことで、職員が働きがいのある職場づくり、そして発言しやすい職場であることを心掛けている。職員個々の生活環境の変化、例えば親族の介護等に合わせて勤務が続けられるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は段階に応じて研修に参加することができ、介護サービスの向上に努めている。毎月のカンファレンスにおいても勉強会の時間を設け、医療や介護、雑学に至るまで広い知識を得る機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者および職員は、富山県認知症グループホーム連絡協議会の研修会に参加している。同業者と懇談する貴重な機会としてネットワークづくりや事例検討、業務の見直し等に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	集中的に関わりを持ち本人を知ることが心掛けている。ご家族からの聞き取りや本人との会話からアセスメントを仕上げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居1ヶ月で、ご家族と面談している。施設での毎日の様子を知ってもらうことでご家族に安心してもらえ、その後の方向性についても話し合っている。ご家族の不安を取り除く助けにもなっていると考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接に伺い、ご家族や関係者から多くの聞き取りを行い、必要とされるサービスを決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のことを教えていただいたり、モップがけ、洗濯物を干したりたたんだり、できる作業をしていただくことで、職員と利用者が支え合う毎日の生活が成り立っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため、今は面会や外出が制限されているが、ご家族との外出や外泊の機会も大切にしている。ご家族には、受診の付き添いもお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力も得て、馴染みの医院への受診や美容院へ行くことを継続している。コロナ禍で気軽に訪問していただくことが難しい状況であるため、写真や近況を知らせる手紙をご家族に送付している。	コロナ禍以前は正月に外泊したり、家族と墓参りに行ったりなどを当たり前に行っていた。現在馴染みの医院や美容院に行くための支援をしたり、家族との絆が途切れないよう定期的に写真とお手紙で家族等とやりとりする取り組みを行い、関係継続のサポートに努めている。	コロナ禍で面会が制限されている状況にあり、なかなか顔を合わせにくい状況になっている。リモート面会等の整備でなじみの人を近しく感じられる環境作りに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を重視している。職員が間に入り会話をつないだり、レクリエーションの際に利用者同士、お互いに名前を知ってもらうように配慮したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても本人やご家族との関係性を保ちたいと考えている。他事業所に移られた後も気軽に声をかけていただいたり、相談を受けたりすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の言動を共有することを大切にしている。どんな状況でどんな言葉や行動が出たのか、また本人の気持ちがわかるような記録をし、申し送りやカンファレンスで共有している。	入居者の日々の言動の中から思いや意向を読み取りカンファレンスで共有している。また、思いや意向を書き込むシート(センター方式のシート)を入居時に家族に記入してもらったり、担当職員がその時々の変化を随時書き足すなどして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や毎日の会話、ご家族からの聞き取りなどから本人の思いを汲み取るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできることをしてもらっている。日常生活の中での気づきを大切に、記録してカンファレンスにおいて共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで職員全員が意見交換をし、利用者一人ひとりの様子を把握している。現状に即した介護計画となるよう随時見直しをしており、チームとして利用者本位の介護計画となるよう心掛けている。	家族の意向を個人記録に記載し、毎月のカンファレンス内で入居者の様子を交えて話し合い、介護計画作成につなげている。作成した計画は変化がない時は半年に1回、状態変化あればその都度見直しを行い、電話で家族にお伝えし、面会時に確認してもらっている。	家族や本人の意向がとびとびに個人記録に記載されている。ケアプランの見直しを行う時、本人や家族の意向が反映、確認しやすい記録の整備の取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを個人ファイルに記録し毎日の申し送りや月1回のカンファレンスで共有して、日常のケアや介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の介護力の増減など、その時々ニーズに合わせて、併設の事業所の協力も得ながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため現在は中止しているが、地域のボランティアを受け入れたり、地元の友人の訪問を受けたりして活気ある生活を送り、地域とのつながりを持ち続けてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得て馴染みのかかりつけ医に通院してもらっている。受診時の情報提供やご家族の都合が悪い時の付き添いに柔軟な対応を行っている。それぞれのかかりつけ医とも連絡を密にしている。	入居時にかかりつけ医を選択できるよう支援をしている。家族同行で通院される際は施設で作成した書式に看護師や管理者が日常の様子等を記入し主治医に伝え、受診結果は個人記録に記入し共有している。協力医とは、24時間対応で状況変化に応じ対応して頂くなど連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の体調について常に看護師と相談している。日常的に利用者を観察している看護師は主治医と連携し、指示をしっかりと他の職員に伝え、適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、本人やご家族の思いを尊重し、主治医の指示に従い安心して治療が受けられる関係づくりを行っている。また、病院とのカンファレンスなどで情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した看取り指針」に基づいてご家族、本人に説明し、納得できるまで話し合っている。利用者が対象となった場合、職員が対応を学ぶ機会を設け、チームで一人ひとりの状況に寄り添った対応ができるようにしている。	契約時に「重度化した看取り指針」を説明している。実際の看取り期には、主治医や家族と連携をとりながら話し合いを重ね、状況に応じその都度意向を確認するなど一人ひとりの状況に寄り添った対応を実践している。また、職員が戸惑う事の無いように勉強会も行い心理的フォローにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個人ファイルにそれぞれの緊急連絡先や既往歴を記入したものを入れている。また、「緊急時対応マニュアル」をフロアに設置し、カンファレンスや申し送りにおいて職員間で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、夜間想定した消防・地震・水害等の避難訓練を年2回行っている。時には地域の方々にも参加していただき、意見をいただいている。シェイクアウトでは1分間、頭を保護しながらテーブルの下などに隠れることもしてもらっている。水や食料の備蓄もしており、災害時には地域の方々に施設を開放する旨も伝えてある。	火災、地震、水害を想定した訓練を年2回行っている。去年は地域の方の協力を得て、一緒に訓練を行なった。水害への対策エリアであることも想定し、3階で避難する訓練に取り組んだり、備蓄品を3階に置くなど工夫もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「プライバシー保護及び個人情報保護マニュアル」をフロアに設置し意識づけをしている。馴染みの関係であってもなれあいになったり遠慮がなくなったりならないように職員同士で声をかけあっている。	フロアにマニュアルを掲示しており、常に確認できるようにしている。勉強会でプライバシーについての話をしたり、権利擁護の外部研修に参加し伝達講習など通じ情報共有し意識づけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の発言や関わりの中でわかったことを個人ファイルに記録して職員間で共有している。日常生活の中でいろいろなことを利用者主体で決められるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のだいたいの流れはあるが、天候や利用者の希望に沿ってスケジュールを決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時や入浴準備、外出時など職員と一緒に着るものを選び、身だしなみを整え、おしゃれができるように支援している。コロナ禍以前は、職員と共に洋服や化粧品を買いに出かけたりしていた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態やできることに合わせて、食事の準備を手伝ってもらっている。また季節に合わせて、おやつ作りをしたり、コロナ禍以前は、誕生日や遠足での外食など食事を楽しめるよう支援していた。	季節ごとに、お節が提供されたり、やきいもや桜餅、おはぎをみんなで作ったりして楽しめるよう支援している。日々の食事には好き嫌いも考慮され、苦手なものは抜いたり代替えで提供したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回体重測定を行い変化がある時は、カンファレンスを開き主治医、看護師、栄養士、介護士で対策を検討している。また1日1,300mlの水分摂取を目標とし、栄養士によるバランスのとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、一人ひとりのレベルに応じた介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間ごとの声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。プライバシーの尊重に配慮した声かけを心掛けている。	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンに合わせたケアに努めている。あえてトイレ休憩の時間だとみんなの前でアナウンスしたり、なにかのついでにトイレに誘ってみたりとプライバシーに配慮したりもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりに合わせた水分補給や栄養士による食物繊維の多い献立の提供、毎日の運動等により便秘の予防に努めている。おやつにヨーグルトやオリゴ糖の摂取も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者同士のふれあいを重視し一緒に入浴していただけるようにしている。体調の変化やケガなどをされた場合は機械浴で対応したり等、急遽の入浴も行っている。	数人で入れる大きな浴槽、ひとりずつ入れる家庭浴槽に加え機械浴槽があり、入居者の好みや状態に応じて入浴できるようになっている。ゆず湯や入浴剤で季節を感じてもらったり、皮膚状態などから入浴回数を増やしたりとさまざまな支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室でプライベートスペースを保っている。フロア消灯後も居室で好きなテレビ番組を観たり、疲れた時には静養されたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬については個人ファイルに記録し、職員全員が確認、理解するようにしている。薬剤情報を個人ファイルにはさみ、薬についてわからないことがあれば、看護師や主治医に尋ねられる関係性を築いている。主治医と看護師は常に連携を取ることを心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできることを活かし、フロアのモップがけ、テーブル拭き、ゴミ出しなど役割を持っていただいている。コロナ禍以前は、利用者の好きな食べ物を職員と一緒に食べに行っていた。男性利用者は、テレビの野球中継を居室で楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は日常的に外出していたが、今はなかなか外出できない。施設の前に公園があるので、天気の良い日に散歩や日光浴をすることで気分転換を図っている。	コロナ禍のため最近なかなか外出できないが、以前は季節の花を見に行ったり、外食に行ったりなどしていた。現在は施設の目の前の大きな公園で散歩したり、桜を眺めたりできる範囲での外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができない方がほとんどである。コロナ禍以前は遠足や外出の際に必要なと思われる金額を渡し、職員と共に買い物をする楽しみを味わっていただいていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状などを作成しご家族や友人に送る楽しみがある。また、深夜、早朝でなければ希望される時に電話をかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に工作や壁画を作り、季節を感じられる装飾を心掛けている。手書き、手作りにこだわり、ぬくもりを感じられるように努めている。共有空間の温度や湿度にも注意し、心地よく過ごせるようにしている。	南向きの大きな窓があり、空間全体を明るく暖かくしている。リビングや廊下の壁にはみんなで作った装飾や写真が飾られており、にぎやか過ぎず、でも視界には日常のいろんな場面で目に入るよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファでゆっくりくつろいでいただいている。テーブルの座席は気の合った人同士が顔を合わせ、会話が弾むようにしている。またフロアに隣接した交流スペースにも椅子やソファがあり、静かに過ごしたい時に活用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの品物や写真などを持ち込み、自分らしい居室を作っていただき、心地よく過ごせるようにしている。コロナ禍のため、ご家族の宿泊はご遠慮いただいているが、以前はご家族がいつでも泊まれるよう配慮していた。	家族の写真を飾り整理整頓されているお部屋、一見雑然としたお部屋でありながら、実は使いやすいように物が置かれている部屋など、個人の性格や個性に合わせ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の力に応じた居室の位置、座席を配慮している。居室、フロアの掃除、洗濯物を干し、たたんで片付けること、シーツ交換など「できること」「わかること」を職員と一緒にしてもらっている。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームみのり

作成日: 令和 2年 12月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ禍で面会が制限されている状況にあり、なかなか顔を合わせにくい状況になっている。	リモート面会等の整備を行い、なじみの人を近しく感じられる環境作りをする。	リモート面会ができるよう、設備面、通信環境を整える。研修を行い、どの職員でも操作ができるよう、そしてプライバシーの確保をしながら、感染防止に気を付けリモート面会ができるようにする。 リモート面会ができるようになったことを、利用者家族に周知する。	3ヶ月
2	26	家族や本人の意向がとびとびに個人記録に記載されている。ケアプランの見直しを行う時、本人や家族の意向を反映、確認しやすい記録の整備がされていない。	家族や本人の意向を一目で確認することができ、ケアプランに反映させることを目的とする記録の整備を行う。	連絡ノートや個人ファイルの記録の仕方を見直し、本人や家族の意向を確認しやすい記録を新しく用意する。職員は記録することと、記録を確認することを習慣づける。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。